

W08a MAXI/GSC が検出した 2020 年度前半の突発現象: X 線連星系の短期長期活動と増光する矮新星 SS Cyg の検出

根来 均, 中島基樹, 青木真凜 (日大), 三原建弘, 松岡 勝 (理研), 岩切 渉, 北古賀智紀, 岡本 豊 (中央大), 志達めぐみ (愛媛大), 菅原泰晴 (JAXA), 庭野聖史, 河合誠之 (東工大) 他 MAXI チーム

全天 X 線監視装置 MAXI/GSC により、2020 年度前半に発見検出した突発現象について報告する。6 月 8 日現在までに新天体の発見はない。一方、4 月 11 日に中性子星 X 線連星 MAXI J0556–332 の 4 度目の、5 月 25 日にブラックホール X 線連星 Swift J1842.5–1124 の 2 度目のアウトバーストをそれぞれ検出した (ATel #13628, #13762, #は ATel 番号)。4 月 23 日には中性子星 X 線連星 XTE J1739–295 からの再増光を検出した (#13656)。Be X 線連星パルサー GRO J1008–57 の、MAXI で 4 度目の検出となるジャイアントアウトバーストの予兆的な活動を 5 月 6 日に、その本格的な活動の始まりを 5 月 22 日にそれぞれ ATel に報告した (#13544, #13750)。4 月 20 日には減光中のブラックホール X 線連星 GRS 1915+105 の増光を捉え (#13652)、5 月 22 日にはミリ秒 X 線パルサー MAXI J0911–655 からの 1 時間半以上続く X 線バーストを検出した (#13754)。4 月 15 日には dMe 型星 AU Mic から、5 月 1 日には RS CVn 型星 SS Boo からの明るい X 線フレアを検出した (#13635, #13730)。また、4 月 27 日に検出した、SGR 1935+2154 からの継続時間 50–100 ms の 2 つのバーストと、ガンマ線バースト GRB 200514A と 200517A を GCN にそれぞれ報告した (GCN Circ. 27661, 27735, 27750)。

これらの突発現象以外に、長らく GSC の 1 日の検出限界以下の強度であった、矮新星 SS Cyg の 2018 年 10 月からの長期にわたる X 線と可視光での増光現象についても報告した (Negoro et al. #13744)。講演では、これらのブラックホールと中性子星連星の活動と興味深い活動が続く SS Cyg について詳しく報告する。